



高齢者等の「デジタル弱者」解消への取組

佐藤 淳一



問 高齢者など、スマートフォンやパソコンを使って行政手続などをスムーズに行うことができないデジタル弱者について、どのような見解を持っているのか伺う。

総務部長 インターネット利用者の数の増加は理解しています。しかし、シルバー世代を中心にスマホやパソコンを苦手とする人がいることも認識しています。

問 役所の人手不足解消や効率化を目指す国の方針と世界の流れを考えると(避けることのできない)デジタルやオンラインに慣れてもらうことが必要である。これまで、市は(デジタル弱者へ)どのような取り組みを行ってきたのか伺う。

総務部長 アナログとデジタルが共存して社会が回っていたので、デジタル弱者への取り組みが行政に対して強く求められていたとは捉えています。

問 (ネットより電話での予約が取りにくかった)コロナワクチン接種予約の現状を見てどのような感想を持ったのか伺う。

総務部長 デジタル化でデジタル

弱者が生まれようとしています。弱者救済では国が大きな政策、施策を打ち出し、国が補完できないところを市がやっていくべきです。

問 民間サービスのデジタル化が進み、行政手続もオンライン化が進んでいる。課題である高齢者等のデジタル弱者へどのように対応していくのか伺う。

総務部長 官民共にオンラインが主流になります。岩沼市でも必要な支援に取り組んでいきます。

スマホ講習を公共施設で

問 デジタル化から取り残される市民が出ないように(無料の)スマートフォン講習会の開催を携帯ショップだけに限定せず、公民館などの公共施設でも積極的に取り組むべきと考えるがどうか。

総務部長 携帯ショップでの講習会はもちろん、地域の公民館(公共施設)などでの講座としての開催も検討していきます。

◎その他の一般質問
・ゼロカーボンシティ



消防団の現状と今後

大村 晃一



問 現在、岩沼市では消防団員が消火活動を行う際に着る防火衣が上衣しか支給されていないのはなぜか伺う。

防災課長 消火活動は、常備消防の後方支援で、最前線での活動は想定しない位置付けとなり、上衣のみ支給をしています。

問 規模の大きな火災になると消防団員も火から数メートルの近い距離で作業を行っているのが現状だが、安全を考えれば、防火衣のズボンや防火靴も含め一式で、支給すべきと考えるがどうか。

防災課長 消防団員の安全対策は、消防団の活動内容に応じた整備が必要と考えています。消防団、消防署、事務局である市の三者で、どのようにしていくのかを検討するため、まずは、消防団に確認をしながら調整をしていきます。

問 火の見やぐらは、修繕に費用をかけても危険はゼロにはならない。安全性を考えれば、さびがひどい危険な火の見やぐらから順番に撤去し、ホース乾燥塔などを設置する計画を立ててはどうか。

防災課長 順次、ホース乾燥塔への切り替えを進めていきたいと考えています。

事前の事故防止対応策を

問 団員の安全対策は、大きな事故が起きてから対応するのではなく、後悔しないように事前に事故を防止することが必要と考えるが、市長の考えを伺う。

市長 資機材、装備は東日本大震災時に、いろいろ見直しはしましたが、消防団の中で議論をして、必要なものは最善努力をさせていただきます。火の見やぐらはできるだけ撤去したいと考えています。役割はほぼ達成し、いろいろな危険な部分から、まずは手を付けていきたいと思えます。

問 市は今なお各団員の報酬や報償をまとめて各部へ振り込んでいますが、今後について、どのように考えているのか伺う。

防災課長 令和4年度から、個人支給への切り替えを進めていきたいと考えています。